

広報 つばめ

子ども版

平成24年
10月15日発行
Vol. 1 創刊号
広報つばめ「子ども版」
2012.OCT



●チームA

わたしたちのチームは、「^{つばめさんじょう}燕三条エフエム放送^{しゅざい}」について取材をしました。
エフエム放送の秘密や災害時の対応^{しゅざい}などを取材しています。

くわ 詳しくは、2・3 ページへ

●チームB

わたしたちのチームは、「^{つばめ まんどう}燕の萬燈^{しゅざい}」について取材をしました。
萬燈の歴史や行事について、取材しています。

くわ 詳しくは、4・5 ページへ



●チームC

わたしたちのチームは、「^{つばめたいはなひたい}燕大花火大会^{しゅざい}」について取材をしました。
皆さんが毎年見ている花火大会を支えている皆さんを取材しています。

くわ 詳しくは、6・7 ページへ



●もくじ

とくしゅう エフエム ひみつ とくしゅう し まんどう れきし
特集① FM ラジオの秘密を知ろう…2 / 特集② 「まんどう」って知ってますか? ~萬燈の歴史~
とくしゅう つばめたいはなひたい みりよく へんしゅうこうき
…4 / 特集③ 燕大花火大会の魅力…6 / 編集後記…8

この広報つばめ「子ども版」は、今年の広報つばめ1月1日号に掲載された「小学生と市長との新春対談」で、子ども広報を作ってみてはというアイデアがきっかけで発行することになりました。
7月から約3ヵ月かけて、子ども記者21人が企画・取材・編集をして作りました。

わたしは、ラジオ番組の制作や取材をしたり、毎日楽しく仕事をしています。ですが、取材先までの道がわからなかったり、毎日が勉強です。

生放送は、ミキサーという機械で音楽や色んな音を合わせたたりして放送しています。このタイミングがとても難しく、失敗することもあるんです。ニュースを読むときも、間違わないように気を付けないといけませんね。災害のときは、深夜まで放送したり激しい雨がやむまで放送をしました。トイレに行く暇も

これからも楽しい番組をたくさん作っていききたいと思います



つばめさんじょう ほうそう 燕三条エフエム放送(株) パーソナリティー くらしげ みちこ 倉重 美智子 さん



▲ミキサーです。たくさんのおんりょうちょうせつ 音量調整レバーがあります。

まとめ
緊急のときには休憩する時間もなくて、情報を伝え続けるそうです。
それほど緊急時のラジオ放送の情報が大切だということが分かりました。

なく、ごはんも食べる時間もありませんでした。
こんなときは、停電するとテレビもパソコンも使えません。ラジオからの情報だけになるので、たくさん情報を伝えました。
これから多くの皆さんに聞いてもらえるように、楽しい番組を作りたいと思います。

放送で心がけるのは平常心で話すことです。けれど、一人だと話す速度が早くなるので、近くにあるものを相手にして話すようにしているんです。

番組の中で次のコーナーに入るときは、内容が変われば、自分の気持ちも変えています。番組にあった気分で放送しています。

今までで一番大変だったのは、東日本大震災のときでした。燕や三条にきた被災者の皆さんに、どんな言葉をかけるのが良いのかをずっと悩んでいるなか、水や食べ物などの救済物資

まとめ
生放送の様子も取材しましたが、パーソナリティーの皆さんは緊張する様子もなく、スムーズに放送していて、すごいなと思いました。

どの番組も面白く役に立つので、ぜひ聞いてみてください



つばめさんじょう ほうそう 燕三条エフエム放送(株) パーソナリティー よしの けいこ 吉野 慶子 さん



▲編集をするときはたくさんのかい 機械を使います。

の情報などを届けていました。

おすすめは、月曜〜金曜日に放送している「つばめさんじょう系」とちん電波」という番組と、火曜・木曜日に市内のいろんなところに行き直接ラジオに出してもらう「生ラジオ」です。
どの番組も面白く、役に立つのでぜひ聞いてください。

「まさか…」の時に安心を
ラヂオは〜と



ラジオ局はどこにあるの？

わたしたちの燕市に、「燕三条エフエム放送」というラジオ局があるのを知っていますか？
ラジオ局ではパーソナリティーさんが情報を届けるため、たくさん工夫をしています。どのように放送をしているのかなど、地元ラジオ局のことを人に自慢できるくらいたくさん知りましょう！

FMラジオの秘密を知ろう

電波はどこから出ているの？

燕三条エフエム放送は、燕市と三条市の街の情報を中心に放送しているラジオ局です。
普段は、自主制作番組と東京で放送している番組を交互に放送していて、地元のイベント情報やおすすめのお店など、お得で楽しい情報を放送しています。
しかし、燕市で大きな地震や大雨などの災害のときには、緊急情報に切り替えて放送しています。この緊急情報とは危険が迫っているのを逃げてくたさいという市役所からの情報や被害状況のことを言います。



つばめさんじょう ほうそう 燕三条エフエムの放送局前。つばめさんじょうえき 燕三条駅の1階にあります。



▲大崎山の電波送信基地。



▲大崎山からの景色。



ほうそうきょく メガヘルツ ごう 放送局の「76.8MHz」号

放送局の電波は、三条市の大崎山にある電波送信基地から、各家庭に電波を届けています。ここは、燕市と三条市を一望できる景色の良いところでした。
緊急時の対策もされており、停電が発生しても、バッテリーで約3時間、電波を発信すること

ができます。その間に復旧しなければ、発電機を使って電波を発信し、放送を続けることができます。また、今年の4月からは、専用の放送車も入りました。普段は取材などで使いますが、災害時には、放送機械を積み込んで、現場などで中継したりします。

まんどう ささ きば こう じまんどうぐみ よこちょうまんどうぐみ みな はな き
萬燈を支える木場小路萬燈組と横町萬燈組の皆さんからお話を聞きました

でんとう 伝統あるお祭りを守っていききたい
昔は、地元の若者が15歳になると「若連中」に入ること、義務づけられたそうです。このころは、娯楽が少なかったため、萬燈は青春時代の大切な行事だったんです。わたしたちが、これから萬燈の歴史と伝統を守り、それを通じていくにあたって、たくさん課題があると思っています。最近、祭りがだんだん小規模になってきていると感じます。本当は、昔のように祭りをだだ出したいのがわたしたちの希望です。あるべきもの、あるべき形というのは、みんなの願いです。また、萬燈は多くの人々のご協力のおかげで出しています。感謝の気持ち忘れずこれからもみんなで、この祭りの伝統を守っていききたいですね。

たいせつ 大切なのは自分たちが楽しむこと
わたしたちは先輩が守ってきた伝統をつないでいます。お祭りでは、並ぶ順番や人物の配置、お囃子を賑やかにするなど、いろんな工夫をしています。しかし、一番大切なのは、自分たちが楽しむことです。浴衣の柄も、横町と大きく書いてあって、歌舞伎の隈取柄も取り入れています。ここにも工夫を入れて目立つ色を使っています。この衣装も昔からあまり変わっていません。わたしたちはこれも伝統だと感じますね。萬燈の素晴らしさは、昔から変わっていない、みんなが力を合わせて本番まで練習に励んでいくことだと思います。これからも見ていただく市民の皆さんに愛されるお祭りにしていきたいと思っています。

きば こう じまんどうぐみ みな
●木場小路萬燈組の皆さん



▲ニッコリとこちらを向いているのは金棒役の子どもです。

よこちょうまんどうぐみ みな
●横町萬燈組の皆さん



▲横町萬燈組のおどり子。

『まんどう』って知ってますか？

まんどう れきし
～萬燈の歴史～

5月の第3日曜日に行われるお祭り、萬燈。つばめちく 燕地区にある戸隠神社の春季例大祭での萬燈は、燕の代表的なお祭りです。お玉さんやひよつとこなど、さまざまな人・物が登場します。萬燈について、いろいろとお話を聞いてきました。

180年前から続いている萬燈。萬燈の歴史はとても古く、約180年前の天保年間に始まったと言われています。

今の宮町・仲町の中ノ口川側の裏通りで発祥したと言われています。昔、このあたりには、鍛冶屋や大工がたくさんいて、職人や商人が京都などへ行ったときに、音頭や山車を見たり、聞いたり、習ったりして、戻ってきたときに地元の祭りを盛り上げるために始めたのが、萬燈のきっかけと言われています。

このお祭りは、萬燈（山車）を引き、「お玉さん」「おどり子」という女の子たちが伊勢音頭に合わせて踊りを披露します。このほかに「金棒」「ひよつとこ」などの役があり、代々受け継がれてきた伝統的なものです。

お祭りにはたくさんのお祭り人物。萬燈の花形「お玉さん」「おどり子」。これは女の子の登場人物で、萬燈独特の化粧や着物で着飾り、大変かわいらしいです。小学1～6年生の12人が務めます。

もう一つの花形が「ひよつとこ」。この名前は、火をおこす「火男」からきていると言われており、火の神様、縁起の良い神様とされています。小学4～6年生の男の子、5・6人が務めます。

次に「金棒」です。金属製の棒を持ち、お玉さん・おどり子を守る男の子で、小学1～6年生の6～12人が務めます。最後に「若連中」です。20～60歳の成年男子が務め、150～200人くらいです。全員同じ柄の浴衣で、朝から夜まで萬燈を披露します。

お祭りで使われている道具

まず「扇子」は、萬燈をより盛り上げる大事な道具です。扇子の真ん中には、萬燈の印（巴紋）が入っています。



次に「かち」は、伊勢音頭のリズムを取ったり、角付けで家々を廻る時の始める合図をしたりします。

そして「ちょうちん」は萬燈が来たとき知らせる合図をします。夜は明かりをつけて、萬燈があることを示します。

最後に「笛」です。笛は萬燈のメロディーを吹く、ある意味、一番大切な道具です。このメロディーがないと、萬燈が成り立たないというくらいとても重要な道具です。



▲横町萬燈組のおどり子



▲木場小路萬燈組のお玉さん

「お玉さん」「おどり子」も、着ているものは似ていますが、袖の部分や色、髪飾りなどが違ってきます。これは各地域の伝統で、大切に引き継がれています。呼び方も違ってらるんですね。



▲横町萬燈



▲木場小路萬燈

萬燈は2台あります。上の紙飾りは、ほとんど同じですが、ちょうちんの模様など少し違ってきます。

まとめ
皆さんの萬燈の歴史と伝統を守っている姿勢は、素晴らしいと思いました。わたしたちはそれを引き継いでいかなければならないと感じました。

はなびしょくにん じっこういいんかいじむきょく しょくいん はなし うかが
★花火職人さんと実行委員会事務局の職員さんからお話を伺いました！

わたしたちが、この仕事を始めて27年くらい経ちました。いままでも、たくさんさんの花火を打ち上げましたが、皆さんの歓声が何よりもうれしいですね。

花火の打ち上げ技術も良くなってきています。昔は花火に直接点火して事故もたくさん起きていました。ですが15年くらい前から電気で点火するようになり、安全性も高まっています。花火で大切なのが「色」です。いろんな色を出すために、次の物質を使って火薬を調合します。赤を出すには「ストロンチウ



▲電気での点火装置
この装置から花火へ電線をつなぎ、電気で点火します。

「見ている人が楽しんでくれること」、「協力してくれていること」の3つです。皆さんに喜んでもらえることやりがいを感じますね。

実行委員は、たくさんさんの仕事がありますが、一つ一つこなしながら準備をしています。皆さんに楽しんでいただけるような花火大会にしたいと思います。

まとめ
じっこういいん
はなびたいかい
花火大会は、実行委員や職人さんなど、多くの皆さんの協力で行われています。これから燕市が花火のようにキラキラしたまちになってほしいです。

にほん すば
日本の素晴らしい花火を
これからも楽しんでください！



(奥)
いずもぎきえんかこうぎょうかぶしきかいしゃ
出雲崎煙火工業株式会社
はなびしょくにん
花火職人
やまざき よしかず
山崎 義和 さん

(手前)
いずもぎきえんかこうぎょうかぶしきかいしゃ
出雲崎煙火工業株式会社
だいひょうとりしまりやく
代表取締役
こばやし ひでなお
小林 秀尚 さん

みな
皆さんからの協力で
花火大会が開催できます！



つばめしなつ
燕市夏まつり連絡協議会
じむきょく
事務局
こざかい たかし
小坂井 孝志 さん

今年も、多くの皆さんが花火大会を見にきてくれました。

実行委員の事務局をやっているうれしかったことは、「今まで1回も事故がないこと」、「見ている人が楽しんでくれること」、「たくさんさんの企業が協力してくれていること」の3つです。

さらに、自然のままの環境で作業するため、夏の暑いときでもクーラーは使えず、冬もヒーターをつけることができません。花火職人の皆さんの大変さが分かりました。

はなびしょくにん
花火職人の大変さ

花火職人の仕事は、大量の火薬を扱うので、作業を機械化することが難しく、ほとんどが手作業です。

また静電気がおこると火薬に火がついてしまう恐れがあるので、静電気が起きにくい綿でできた服しか着ません。



いずもぎきまち はなびこうじょう
出雲崎町にある花火工場に
取材にやってきました。

職人さんは、尺玉(10号玉・直径30cm)だと製造に約1カ月間も必要とのことで、夏の花火大会のときはとても忙しいそうです。

また、冬には花火の部品を作ったりして、寒いときから花火大会の準備をします。

もっときれいな花火を作って、皆さんに楽しんでもらいたいです。



しゃくだま はっしゃつ
尺玉の発射筒です。



じっさいしゃくだま
▲実際の尺玉です。



てきぎょう つく
▲手作業で作っています。

燕市は、毎年大勢の人で賑わっています。花火をどんな人が作っているのか？

また、どんな人が計画を立てているのか？

そこでわたしたちは、花火職人さん、実行委員の方々のもとに取材に行ってきました。

次に花火大会がどのように運営されているのか、花火実行委員会事務局取材しました。

平成18年に旧燕市・旧吉田町・旧分水町が合併し、燕がひとつになりました。それまで3カ所で行われていた花火大会が分水の大河津分水で行われるようになりました。

それまで3カ所で行われていた花火大会が分水の大河津分水で行われるようになりました。

はなび
花火1個を作るのに1カ月も必要なの？

キラキラしたまちになればとの思いが詰まっています！

燕市は、毎年大勢の人で賑わっています。花火をどんな人が作っているのか？

また、どんな人が計画を立てているのか？

そこでわたしたちは、花火職人さん、実行委員の方々のもとに取材に行ってきました。

はなびたいかい
花火大会は
どうやって
行われている
のでしょうか？



※下段の2枚の写真は、別日程で市役所職員が撮影したものです。

取材・編集を終えて、21人の子ども記者のみなさんから、楽しかったことや大変だったことなど、感想を伺っています。



吉田小6年 松原 望愛
目標であった燕市のことを良く知ることができたし、文章書きも上手にまとまりました。



吉田南小5年 田中 裕希
取材のとき、インタビューされる方が、ずっと笑顔で答えていたのが印象に残りました。



吉田南小6年 岡部 純也
記者の気分でやれました。FMのことがよく分かり、みんなで協力もできてよかったです。



小池小6年 田巻 拓道
取材で番組に出たのがすごくドキドキしました。みんなと仲良くなれてよかったです。



吉田北小5年 長谷川 楓
子ども記者をして、とてもよい経験でした。インタビューが出来て楽しかったです。



燕南小5年 古川 睦
いろいろ悩んだけど完成して良かったです。楽しかったけど、出来て良かったです。



吉田北小5年 森山 晴日
取材した事をまとめるのは楽しかったけれど、FM取材はとても楽しかったです。



燕南小6年 矢代 晴子
子ども記者は、みんなと文を考えたりするのが楽しかったです。とても良い経験でした。



燕西小6年 登坂 彩未
子ども記者の活動を通して、いろんな友達と協力できる、とても良い経験ができました。



燕西小6年 遠藤 真衣
萬燈について記事を書きました。萬燈を知らない人にも魅力が伝わるよう工夫しました。



燕東小6年 西山 未来
初めて本格的に広報を作って、あまり経験できないことをやれて楽しかったです。



燕南小5年 早川 朱瑞
初めての取材や編集で緊張もして大変でした。みんなで協力してできて良かったです。



吉田南小6年 諸橋 麗
いろんな体験ができて楽しかったです。友達もたくさんできて、良い経験になりました。



吉田小6年 渡辺 涼
とても楽しい活動でした。特に、一番楽しかったのは、チームでの取材活動でした。



吉田北小6年 込山 梨紗
リード文などを考えるのが難しかったです。また、写真を撮るのも結構大変でした。



分水小5年 桑原 遥陽
花火についていろいろ分かったので、子ども記者を始めてとても良かったと思います。



燕西小5年 大橋 ミュウ
インタビューのとき、ドキドキしたけど燕市について知ることができたので嬉しかった。



燕東小6年 長谷川拓海
取材をして、より燕のことを知ることができました。貴重な体験ができて良かったです。



燕東小6年 小野 寿真
インタビューは、難しかったです。でも、しっかりとできたので嬉しかったです。



分水北小5年 樋口 理子
写真を担当し、表情や花火の筒の大きさをうまく伝えられるように工夫しました。



小中川小5年 松井 美樹
取材で大変だったところはインタビューをしてメモを書いたりすることでした。